

習志野市教育委員会会議録
(平成24年第6回定例会)

- 1 期 日 平成24年6月27日(水)
習志野市教育委員会事務局大会議室
開会時刻 午後3時00分
閉会時刻 午後3時50分
- 2 出席委員
- | | |
|-------|---------|
| 委 員 長 | 星 野 龍 |
| 委 員 | 鈴 木 大 地 |
| 委 員 | 青 木 克 己 |
| 委 員 | 梓 澤 キヨ子 |
| 委 員 | 植 松 榮 人 |
- 3 出席職員
- | | |
|------------|---------|
| 学校教育部長 | 辻 利 信 |
| 生涯学習部長 | 早 瀬 登美雄 |
| 学校教育部参事 | 植 草 満壽男 |
| 学校教育部参事 | 加 藤 清 一 |
| 学校教育部参事 | 高 柳 英 昭 |
| 学校教育部次長 | 田久保 正 彦 |
| 学校教育部副参事 | 鈴 木 博 |
| 生涯学習部副技監 | 及 川 隆 志 |
| 教育総務課長 | 飯 島 稔 |
| 学校教育課長 | 小 熊 隆 |
| 指導課長 | 村 田 均 |
| 総合教育センター所長 | 小松崎 修 男 |
| 生涯スポーツ課長 | 片 岡 利 江 |
| 青少年課長 | 浅野目 俊 紀 |
| 青少年センター所長 | 新 井 嘉 晴 |
| 学校教育部主幹 | 松 本 健 志 |
| 学校教育部主幹 | 島 本 博 幸 |
| 学校教育部主幹 | 村 山 典 久 |
| 学校教育部主幹 | 真 田 知 幸 |
| 学校教育部主幹 | 小 浜 由美子 |
| 学校教育部主幹 | 小 澤 由 香 |
| 生涯学習部主幹 | 猪 股 昭 喜 |
| 生涯学習部主幹 | 森 下 雅 之 |

4 会議内容

委員長が

平成24年習志野市教育委員会第6回定例会の開会を宣言

委員長が

会議規則第15条の規定により、議案第42号を非公開とすることについて諮り、全員異議なく非公開と決定された。

委員長が

本日の日程について、非公開の議案を協議事項の後に審議することについて諮り、全員異議なく提案どおり決定された。

委員長が

平成24年第5回定例会の会議録について承認を求め、全員異議なく承認された。

報告事項(1) 平成24年度学校基本調査の結果について

(教育総務課)

学校教育部主幹が

学校基本調査は、文部科学省が、全国の幼稚園から大学までのすべての学校を対象に、学校数、学級数、在学者数、教職員数などの学校教育に関わる基本的な事項について、5月1日を基準日として、毎年1回、調査を実施しているものである。

市立13幼稚園の園児と東習志野・杉の子両こども園の短時間児を合わせると、園児数は51学級、1,113人で、昨年度と比較すると、学級数の増減はないが、園児数は50人減少した。市立16小学校に在学する児童数は、323学級、9,009人で、昨年度と比較すると、学級数は1増、児童数は、181人の減少、市立7中学校の生徒数は、138学級、4,268人で、8学級、121人の増加、習志野高等学校の生徒数は、28学級、1,066人で、2学級、31人の減少となった。定時制は、一昨年の入学試験まで、普通科1学級40名、商業科1学級40名を募集していたが、昨年度よりこの募集を停止している為、比較すると2学級、36人の減少となっている。

以上合計すると、市立幼・小・中・高等学校における学級数、在籍者数は、540学級、15,456人となり、昨年度より、7学級の増加、141人の減少が見られた。

次に教職員数は、幼稚園・こども園82人、小学校525人、中学校277人、高等学校85人であり、合計969人、昨年度比10人の増加となっている。そのうち教諭等の数は、小学校379人で昨年度比3人増加、中学校227人で、11人増加であった、と概要を説明

委員が

向山小、袖ヶ浦西小は1学年1クラスの場合があるが、教育上支障はないのか、と質問

指導課長が

学習内容については、他の学校と同じく学習指導要領に沿って授業を行っているので教育上支障はない。また、児童数が少ない学校では、他学年と合同で行事を行うなどで、多

く子ども達と交流する場を作っている、と回答

委員が

J R 津田沼駅南口の開発に伴い、谷津小学校は今後児童数が増えていく事が予想されるが、教室数の確保はできているのか、と質問

教育総務課長が

今後、鉄骨造りの校舎を増築し、児童の増加に対応していく予定である、と回答。

委員が

特別支援学級がある学校とない学校があるが、ない学校に通いたいという要望が出た場合はどのようにするのか、と質問

学校教育課長が

特別支援学級には特別な設備が必要となるので、すぐに要望に応えるのは難しい。児童生徒数の状況を見ながら予算化することとなる、と回答

委員が

特別支援学級の教諭は特別な資格をもっているのか、と質問

指導課長が

資格としては特別支援学校教諭免許がある。免許を持っていない教諭もいるが、研修を受けたりしながら技術を磨いている。なお、研修については普通学級の担任が受けられるものもある、と回答

委員が

特別支援学級教諭の資格はどのようにして取得するのか、と質問

指導課長が

特別支援学校教諭免許状は、県教育委員会の認定講習を受けたり、大学等で所定の単位を修得することで授与される、と回答

委員長が他に質疑なしと認め、報告事項（１）は了承された。

報告事項（２） 平成２６年度全国高等学校総合体育大会の開催について

（生涯スポーツ課）

生涯学習部主幹が

平成２６年度全国高等学校総合体育大会が東京都・千葉県・神奈川県・山梨県の南関東四都県で開催される事になり、千葉県における実行委員会が設立された。今後、本市においては、平成２４年１１月に実行委員会設立総会及び第１回の総会を開催する予定であり、本大会の概要並びに習志野市の準備日程について報告するものである。

本大会開催の目的は、高校生に広くスポーツ実践の機会を与えることにより、技術の向

上を図り、心身ともに健全な生徒の育成、相互の親睦を図ろうとするものであり、大会の愛称は「煌めく青春 南関東総体2014」、スローガンは「君の汗 輝く一滴 勝利の雫」となっている。本大会は近年まで1都道府県での単独開催であったが、平成22年度の沖縄県での開催をもって全国47都道府県での開催が一巡し、平成23年度大会以降は、開催経費の節減、施設の有効活用、効率的な運用などを考慮し、各地域によるブロック開催となった。開催期間は平成26年8月17日（日）から20日（水）までの4日間、習志野市では千葉県国際総合水泳場において、水泳競技（競泳・飛び込み）が開催される、と概要を説明

委員長が質疑なしと認め、報告事項（2）は了承された。

議案第41号 平成25年度習志野市立習志野高等学校第1学年入学者選抜要項の 制定について (学校教育課)

学校教育課長が

本議案は、習志野市立習志野高等学校管理規則第24条の規定により、平成25年度習志野高等学校第1学年入学者の選抜方法について制定するものである。平成23年度入試より、県立高等学校の入学者選抜要項が変わってから3回目の選抜となる。基本的には、平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜要項及び、実施細目に準じており、昨年度との主な変更点は、学力検査日等の各種日程である。これは、平成25年度千葉県県立高等学校入学者選抜の日程及び方法と同一日程としている、と概要を説明

委員が

昨年度の入試の倍率はどのくらいか、と質問

学校教育課長が

普通科は453名が志願し、1.89倍、商業科は139名が志願し、1.74倍である、と回答

委員が

昨年度の入試で合格し、入学した市内出身の生徒の割合はどのくらいか、と質問

学校教育課長が

市内出身の生徒の割合は普通科が733名のうち180名で24.5%、商業科は240名のうち20名で8.3%、全体として973名のうち200名で20.5%である、と回答

委員が

もっと市内出身の生徒が増えるよう、工夫をしてほしい、と要望

委員長が他に質疑なしと認め、採決の結果、議案第41号は全員賛成で原案どおり可決された。

協議第 1 号 次回教育委員会の期日について協議し、平成 24 年 7 月 25 日（水）午後 3 時に決定された。

その他

委員が

J R 津田沼駅南口の開発に伴い、谷津の住居表示を変更するようなことを聞いたが、そのような方向性があるのか、と質問

学校教育部参事が

9 月の市議会において、開発事業者から土地区画整理組合から愛称である「奏の杜」へ住居表示の変更を求める陳情が、一方近隣住民からは現在の「谷津」の存続を望む陳情が市議会に提出された。陳情を審議する総務常任委員会では「継続審議」という状況になっている、と回答

委員が

かねて、この度の開発に伴う児童数増加の対応として、通学区域の見直しの必要性など意見をさせて頂いたが、通学区域の変更に関しては議会に陳情など出すことはできるか、と質問

学校教育課長が

通学区域の設定、変更は教育委員会の議決事項であるため、教育委員会において決定する、と回答

<議案第 4 2 号は非公開>

議案第 4 2 号 平成 24 年度教科用図書葛南東部採択地区協議会委員の選任について
(指導課)

指導課長が

平成 24 年度教科用図書葛南東部採択地区協議会委員の選任について概要を説明

採決の結果、議案第 4 2 号は原案どおり可決された。

委員長が

平成 24 年習志野市教育委員会第 6 回定例会の閉会を宣言